

上北地域県民局地域農林水産部 十和田家畜保健衛生所
上十三地区家畜衛生推進協議会
(一社)青森県畜産協会

0176-23-6235 (FAX 0176-23-3044)
0176-25-2362 (FAX 0176-24-3888)
017-722-4331 (FAX 017-731-1196)

牛ウイルス性下痢・粘膜病対策をしましょう

牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD・MD)は近年増加傾向にあり、全国的なまん延が危惧されているため、新たにガイドラインが策定されました。

BVD・MDとは

BVDウイルスの感染により、発熱、下痢、血便、呼吸器病を起こし、妊娠牛に異常産や繁殖障害を起こす届出伝染病に指定されている病気です。

多くは一過性で回復しますが、妊娠牛が感染すると、本病に特有の**持続感染牛(PI牛)**が産まれます。

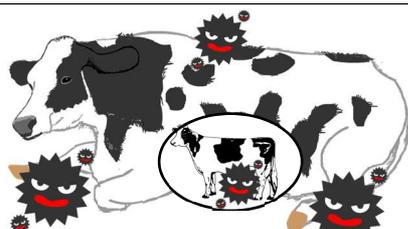
本病には、ワクチンによる予防対策が有効です。

PI牛とは

妊娠牛(胎齢約30~120日齢)が感染すると、胎子は免疫機能が未熟なため、抗体を作ることができず、**大量のウイルスを排出するPI牛として生まれ、本病の感染源になります。**

PI牛の何が問題か？

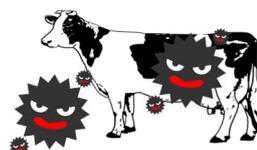
- 生涯鼻汁や糞尿に大量のウイルスを排泄し続け、他の牛に感染させます。
- PI牛は農場全体に感染を広げるため、生産性に大きな影響を与えます。
- PI牛は発育不良、長期不受胎、慢性的な下痢を起こしやすい。
- PI牛には有効な治療方法はありません。



妊娠中に感染すると胎児にも感染



PI牛となり、ウイルスを排出



他の牛へ感染

PI牛分娩

PI牛には治療法がありません。しっかり対策をしていきましょう！

対策のポイント

1. ワクチン接種

感染予防のため、ワクチン接種をしましょう。

ワクチンの紹介

ワクチン	牛呼吸器病 5 種混合生ワクチン	牛呼吸器病 6 種混合ワクチン
成分 (対象疾病)	牛伝染性鼻気管炎ウイルス 牛パラインフルエンザウイルス 牛RSウイルス 牛アデノウイルス(7型) BVDウイルス1型	牛伝染性鼻気管炎ウイルス 牛パラインフルエンザウイルス 牛RSウイルス 牛アデノウイルス(7型) BVDウイルス1型 BVDウイルス2型

子牛は初乳に含まれている抗体の消失時期に合わせて、育成牛・成牛は種付け前までにワクチンを接種しましょう。

***妊娠期間中に BVD ウイルスの生ワクチンを接種すると胎子が感染し、PI牛となるので、妊娠期間中にはウイルスが不活化されている6種混合ワクチンを接種しましょう**

2. 農場へのウイルス進入防止

- (1) 畜舎や車両の消毒、毎日の観察による異状牛の早期発見、導入牛の隔離・観察など飼養衛生飼養衛生管理基準の遵守を徹底してください。
- (2) 消毒には、アルコール系、次亜塩素系、逆性石けん等の消毒薬が有効です。
- (3) 導入牛の隔離は一週間程度、他の家畜との接触を避け、異状がないことを確認してください。
- (4) 異状牛発見の際は、速やかに獣医師または当所に連絡してください。

予防対策や検査などご不明な点は家畜保健衛生所へご相談ください！

十和田家畜保健衛生所
電話 0176-23-6235(平日) 携帯 090-6453-7023(休日・夜間)
ホームページアドレス: <http://www.applenet.jp/~towada-kaho/>